

公共施設訪問報告書

1 取組の概要

開催日時 令和元年5月12日(日) 13:00~16:30

開催場所 魚津埋没林博物館、ありそドーム、新川学びの森天神山交流館

取組内容

魚津埋没林博物館、ありそドーム、新川学びの森天神山交流館の3施設を訪問し、各施設の現状や運営コスト縮減策等について、第1回2040会議における意見交換内容もふまえて運営担当者と意見交換を行った。

2 施設運営者の意見

以下「公共施設再編方針」とは、平成26年7月に策定された魚津市公共施設再編方針を指すものとする。

【埋没林博物館】

(1) 施設等の現状について

- ・埋没林は全国で70か所あるが、指定地での博物館は魚津市含めて3か所。水中展示は魚津だけ。
- ・北陸新幹線開通にあわせて改修(注:平成26年度にリニューアルを実施)し、ライティングを変えて雰囲気はよくなった。
- ・多くが市外からの来館者である。

(2) 公共施設再編方針における方針内容について

(埋没林博物館は「維持」となっていることから、特段意見なし。)

(3) 利用料金の増加について

- ・現状520円で高いという意見もある一方、ツイッターで低いという意見もある。旅行会社からは今くらいがギリギリではないかと言われている。

(4) その他コスト縮減策について

- ・特別天然記念物としての指定地に博物館が立地している関係から、埋没林博物館の移転は難しい。
- ・反対に、水族館の場所を埋没林博物館に移すことも、近隣の民有地活用も含めて難しい。また、水族館が移転すればミラージュランドとの連携が失われる。
- ・展示部分のみ移転・他施設に集約しても集約効果が上がらないのでは。また、保存・展示施設は文化財を継承していくうえで必要。文化庁にも難色を示されかねない。

- ・歴史民俗博物館の機能移転という意見については、部分的に歴史展示を取り入れることは可能。ただし、歴史民俗博物館では空調が完備された収蔵庫で膨大な収蔵品を保存している。現状では埋没林博物館には収蔵庫がほとんどない。
- ・プロジェクションマッピングなどはお金をかければ実現できるが、瞬間的に来館者が伸びてもいずれ来なくなるので、次から次へと実施しなければならない。
- ・開館時間短縮については、現状では無料エリアを 19 時まで開けているが、カフェ“KININAL”の営業時間が 17 時までに変更されたので、それにあわせて早々に 17 時にしたいと考えている。
- ・開館時間の短縮によって受付業務の委託費用は若干減少するが、光熱水費はあまり変わらないと思う。

### 【ありそドーム】

以下、ありそドームだけでなく市内スポーツ施設全体に関わる内容を含む。

#### (1) 施設等の現状について

- ・当施設は新川地区の拠点、複合施設という異業種交流の場として建設され、大規模イベントや地元大会の受け皿として開設された。
- ・体育協会でしんきろうマラソンや全国大学女子野球といった、市を代表するスポーツイベントも実施している（実行委員会が市から移管された）。
- ・平成 24 年度以降、収入は右肩上がり順調に推移している。
- ・高いレベルの大会を誘致するありそドームと、地元の小中学校の活動の場としての総合体育館など、拠点施設を中心としてスポーツ振興に取り組んでいる。
- ・総合体育館を含めて、競技団体との利用調整を行っている。
- ・ありそドームにおいては、各スポーツ団体を通じて、県レベル大会以上を誘致している。
- ・総合体育館では、平日昼間は介護予防系の事業が行われている。
- ・新しくフィットネスクラブが開設した影響としては、多少客が流れるかもしれないが、当方の強みを生かした運営努力が継続できれば影響は少ないと考えている。
- ・当方の強みはスタジオエクササイズ存在と、トレーナーと客との近い距離感。トレーナーとプログラムを組むことができ、客とのやりとりの中でスタジオプログラムもアップデートできる。
- ・S-QOLとの客層のすみ分けも図れており、医療も含めた高度なレッスンが可能なS-QOLに対して、当施設はあまりお金をかけられないがしっかりフィットネスに取り組みたい方に対して需要がある。
- ・子どものプール教室に対する需要は根強い。
- ・トレーニングジムとプールが離れているのは不便。
- ・プールの指導員確保が難しくなってきた。

## (2) 公共施設再編方針における方針内容について

(総合体育館は「廃止」となっており、代替機能として小中学校や他の施設にある体育館の活用などが想定されている。)

- ・うおづスポラ（総合型地域スポーツクラブ）は基本的には総合体育館が拠点となっているため、廃止の影響は大きい。
- ・競技を運営する各競技団体としては、大会開催にあたり旧小学校体育館は使用できないので、競技運営上の利便性は低下する。
- ・石川県では空き小学校を指定管理施設とする事例もある。魚津での空き小学校体育館の活用は地域振興会の活動が活発な中で検討が難しいかもしれないが、受益者負担の適正化も行いながら活用を検討できればと思う。
- ・もし当方で旧小学校体育館も含めた体育施設の運営管理を行うとした場合でも、十分に運営可能だと思う。

## (3) 利用料金の増加について

- ・運営管理者が指定管理者なので協議が必要。消費税増税のタイミングでの利用料増加について市と協議を行っていた。類似施設と比べて安いという話もある。今後も協議させていただきたい。
- ・410円で、トレーニングジムもスタジオも使えるのは破格。それぞれ料金区分を分けて見直しを行う余地があると思う。

## (4) その他コスト縮減策について

- ・展示ホールの稼働率向上のため、地元企業のイベントや、類似施設などで営業活動を行っている。フリーマーケットにも取り組んでいる。
- ・旧体育館を収益施設に改修といった事例が魚津市でも検討できるのであれば、当方としてもメリットが大きく、地区に合った企画ができる。

## 【新川学びの森天神山交流館】

### (1) 施設等の現状について

- ・利用率が多いのは音楽棟。
- ・食堂利用に際しては、要望に応じて市内事業者に食事を提供してもらっている（昼食場所として開放（要予約）しているほか、宿泊者の食事場所として使用されている）。
- ・宿泊棟は官民の泊りがけ研修などにも使われている。
- ・利用収入約1,200万円のうち約300万円が宿泊棟利用分。

### (2) 公共施設再編方針における方針内容について

(新川学びの森天神山交流館は「一部廃止（体育施設、宿泊施設及び食事施設は廃止）」

となっている。)

- ・利用者に喜んでもらっている施設なので、収入増や歳出削減について行動を起こすチャンスをいただきたい。
- ・一部廃止によって収入は減る中で、どこまでコスト削減ができるか疑問がある。

### (3) 利用料金の増加について

- ・市担当課だけでなく利用者とも協議を行い、見直し案は検討していたが、市側の判断により保留とされた(注:公共施設再編見直しの機会とあわせて十分に議論したうえで改めて整理するべきとされ、消費税増税に見合った改定のみが検討された)。利用者側からは料金見直しに対して理解をいただいております、反対意見はなかった。
- ・数年前にも有識者から市へ料金是正を提言されていたが、検討が進まなかったようにみられる。今が時機だと思う。
- ・サービスを付加して利用料を上げることに對する提案を市に對してあげ続けている。

### (4) その他コスト縮減策について

- ・軽易な修繕を自社で行う、新電力への切り替えを行うなどランニングコストを抑える努力をしているが、歳出を削り続けるのも限界がある。
- ・開館時間の短縮によって売り上げが下がることになる。ただし、日曜の夜は比較的稼働率が低いことから、試行的に開館時間を17時までとすることを検討している。

## 3 その他の意見

- ・魅力を高め入館者が増えないと維持できない。金をかけるべきところに金をかけるべきではないか。これまでの市の施策ではその時々で方向性が異なったり、やることが中途半端である。
- ・学校等の体育館の開放について、無料開放はすべきではない。税金で動かしている建物なので、反発はあっても一律やめてしまった方がいいのでは。受益者負担の適正化を図るべき。
- ・財政が厳しい中で施設が充実している。便利さを維持するのであれば利用料金か税収を上げるかであり、厳しいことを言ってもいいのでは。
- ・参加者に形式的ととられないためにも、こういう会議でのせつかくの意見が反映されてほしい。
- ・例えばスポーツ機能において、施設のハード部門とソフト部門とを、それぞれ異なる団体で連携し、補い合うことも検討の余地があるのではないかと。